



滝乃川学園放課後等デイサービス支援プログラム



令和6年度より5領域(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」との繋がりを明確化した支援プログラムの作成と公表が求められることとなりました。滝乃川学園放課後等デイサービスでは支援プログラムを作成し、活動を行ってまいります。

「健康・生活」

検温や手洗い、手指消毒等の健康管理や体調の把握に努めます。排泄や食事等の日常動作でできることを増やし、身辺自立に繋がる支援に取り組みます。私物整理を通して自分の物と他者の物との区別がつけられるように支援します。日用品や玩具の片付け等、日常生活に活用できることを目指した支援の提供や補助を行います。

「運動・感覚」

ブランコやシーソー、トランポリン、散歩等、体全体を使う活動により、体のバランスや体をコントロールする力を養い、粗大運動の発達を促します。パズルや知育玩具遊び、工作道具を扱う活動等から手指の微細運動の習得を目指します。果物や野菜の収穫体験等で食育を意識し、川遊び等で自然や季節を感じる活動に取り組む等、経験を増やして感情や情緒を育むことに努めます。

「認知・行動」

SST(ソーシャルスキルトレーニング)を日常生活に取り入れ、挨拶やマナーが身につけられるように努めます。工作遊びやおやつ作り、知育玩具遊び、日常動作、個別課題等を通して様々な認知機能への働きかけを行い、伸ばしていきます。利用児が落ち着いた行動、適切な行動となるような支援や環境設定を行っていきます。

「言語・コミュニケーション」

日常的な挨拶、言葉かけを大切に、言葉への理解や言語表出が進むような支援に努めます。絵カードや写真カード、マカトンサイン、ハンドサイン等、利用児1人1人の状態に合わせたコミュニケーション方法を工夫します。スタッフと視線を合わせる練習をしたり、具体的でわかりやすい情報提供をしたりすることにより受容コミュニケーション力が高まることを目指します。

「人間関係・社会性」

ごっこ遊びや集団遊び等を通して他者との気持ちの良いやりとりが身につくような支援を行います。地域の公園や公共施設等へ出かけ、社会でのルールやマナーの理解が高まるような支援を行います。心理療法を通して利用児1人1人の将来を見据えた社会性の高め方や感情のコントロール方法を模索します。



提供している活動は5領域に相互に関連したり重なったりしており、5領域を組み合わせた以下のイメージでの活動提供を行っています。

5領域 活動	健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュ ニケーション	人間関係・ 社会性
始まりの会	○			○	○
おやつ作り	○	○	○		
工作遊び	○	○	○		
読み聞かせ			○	○	○
園庭遊び	○	○			○
集団遊び		○	○	○	○
個別課題		○	○	○	○
地域への外出	○	○	○		○
収穫体験	○	○	○		○
季節のイベント	○	○	○		○
心理療法			○	○	○





支援プログラム



法人（事業所）理念	私たちは滝乃川学園を利用する全ての人の豊かな生活を支えます。そのことが私自身の心の豊かさにつながると信じて働いています。		
支援方針	安全で安心して楽しめる活動の場の提供をします。様々な活動を提供し、心身の成長につながります。		
営業時間	11時00分～19時00分（長期休暇期間は10時00分～18時00分）	送迎実施の有無	あり・なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	検温や手洗い、手指消毒等の健康管理や体調の把握に努めます。排泄や食事等の日常動作でできることを増やし、身辺自立に繋がる支援に取り組みます。私物整理を通して自分の物と他者の物との区別がつけられるように支援します。日用品や玩具の片付け等、日常生活に活用できることを目指した支援の提供や補助を行います。	
	運動・感覚	ブランコやシーソー、トランポリン、散歩等、体全体を使う活動により、体のバランスや体をコントロールする力を養い、粗大運動の発達を促します。パズルや知育玩具遊び、工作道具を扱う活動等から手指の微細運動の習得を目指します。果物や野菜の収穫体験等で食育を意識し、川遊び等で自然や季節を感じる活動に取り組む等、経験を増やして感情や情緒を育むことに努めます。	
	認知・行動	SST（ソーシャルスキルトレーニング）を日常生活に取り入れ、挨拶やマナーが身につけられるように努めます。工作遊びやおやつ作り、知育玩具遊び、日常動作、個別課題等を通して様々な認知機能への働きかけを行い、伸ばしていきます。利用児が落ち着いた行動、適切な行動となるような支援や環境設定を行っていきます。	
	言語コミュニケーション	日常的な挨拶、言葉かけを大切にし、言葉への理解や言語表出が進むような支援に努めます。絵カードや写真カード、マカトンサイン、ハンドサイン等、利用児1人1人の状態に合わせたコミュニケーション方法を工夫します。スタッフと視線を合わせる練習をしたり、具体的でわかりやすい情報提供をしたりすることにより受容コミュニケーション力が高まることを目指します。	
	人間関係社会性	ごっこ遊びや集団遊び等を通して他者との気持ちの良いやりとりが身につくような支援を行います。地域の公園や公共施設等へ出かけ、社会でのルールやマナーの理解が高まるような支援を行います。心理療法を通して利用児1人1人の将来を見据えた社会性の高め方や感情のコントロール方法を模索します。	
家族支援	心理士や児童発達支援管理責任者を中心にいつでもご家族からの相談を受け付け、ご本人、きょうだい、その他のご家族についての相談をお受けします。		
移行支援	様々な活動を通して生活経験を増やして身辺自立を促します。地域資源利用を通して地域で生活するスキルの獲得を目指します。		
地域支援・地域連携	図書館や博物館、科学館など地域の様々な場所に外出し、社会経験を増やすと共に社会ルールやマナーに接する機会の提供を行います。障害児関連事業所向けの学習会を実施し、他事業所との連携を深め、地域全体の支援のスキル向上につなげます。		
職員の質の向上	職員の希望する研修への参加や企画を促し、全職員が障害特性の理解や保護者対応、リスクマネジメント、感染症対応など様々なジャンルの研修を複数回受講ができるよう努めます。子どもの権利を守る意識の啓発に取り組みます。		
主な行事等	いちご狩りや芋掘りなどの畑での収穫体験（春、秋）、川遊び（夏）、ハロウィンイベント（秋）、地域への外出。		

